道の駅災害時支援事業研究会シンポジウム

【開催趣旨】
〇「道の駅における災害時支援に関する研究会」を設置
〇「官・民」の協働による道の駅における災害時支援にかかる研究を実施
〇災害時の支援拠点となる「道の駅」に、「災害支援キャビネット・デスク」の設置を提案
〇「道の駅」と「企業」の事業の合意形成を図る研究を実施

【シンポジウム概要】
〇災害時支援研究会における取組み紹介
〇自治体首長、道の駅管理者、災害時に支援可能な事業者からの取組み実践事例の報告
〇道の駅における災害時支援に関する研究会からの提言

【プログラム】
平成31年1月16日、14:00～16:40
コーディネーター:石田東生筑波大学名誉教授
発表者:福島県磐梯町長
熊本県阿蘇市長
神奈川県箱根町長
山崎製パン(株)
岩田食品(株)
東京海上日動リスクコンサルティング(株)
(株)フェザンレーブ

自治体首長による実践事例報告（福島県磐梯町）

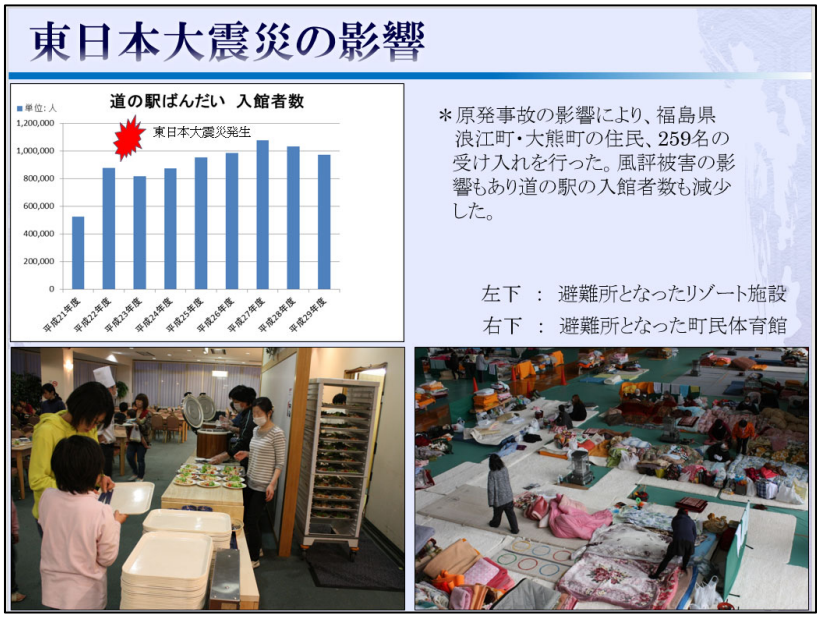
○東日本大震災、原発事故により、多くの方々が磐梯町に避難（平成23年）

■課題
- 避難所におけるプライバシーの確保
- 道の駅に避難しただけでは生活を続けることが困難

■道の駅が果たした役割等
- 防災拠点という位置付けで活動

■災害に備えた活動
- 電気自動車充電設備を設置
- 道の駅に電気自動車を導入
- 避難者の受入を想定し、道の駅施設を拡張予定

■民間事業者に期待する事項
- 温泉施設、ビジネスホテルの運営、災害時には避難所として開放
- 防災機能、設備のノウハウに関する協力



自治体首長による実践事例報告（熊本県阿蘇市）

〇九州北部豪雨（経験したことのない大雨）による浸水被害（平成24年）
〇豪雪により多数の立ち往生車が発生（平成26年）
〇阿蘇中岳第一火口噴火により、観光客激減、農作物に被害（平成27、28年）
〇熊本地震（震度6弱、M7.3）により、災害関連死20件、避難者数7,600人以上（平成28年）

■課題
- 災害弱者である赤ちゃんと妊産婦へのケアが必要
- 非常食の取り扱い

■道の駅が果たした役割等
- 非常食、飲料水の提供
- 緊急避難者（車中避難者）の受入
- 救援隊の集結ポイント、救援基地

■災害に備えた活動
- 過去の災害の経験から避難所にパーティションを設置
- 防災倉庫を整備、融雪剤を備蓄、非常用電源を確保
- 道の駅で非常食の試食会を開催、販売･備蓄を開始
- 民間事業者の協力により、ソーラー発電システムを設置

■民間事業者に期待する事項
- 道の駅における子育て支援
- ローリングストックの考え方の導入

自治体首長による実践事例報告（神奈川県箱根町）

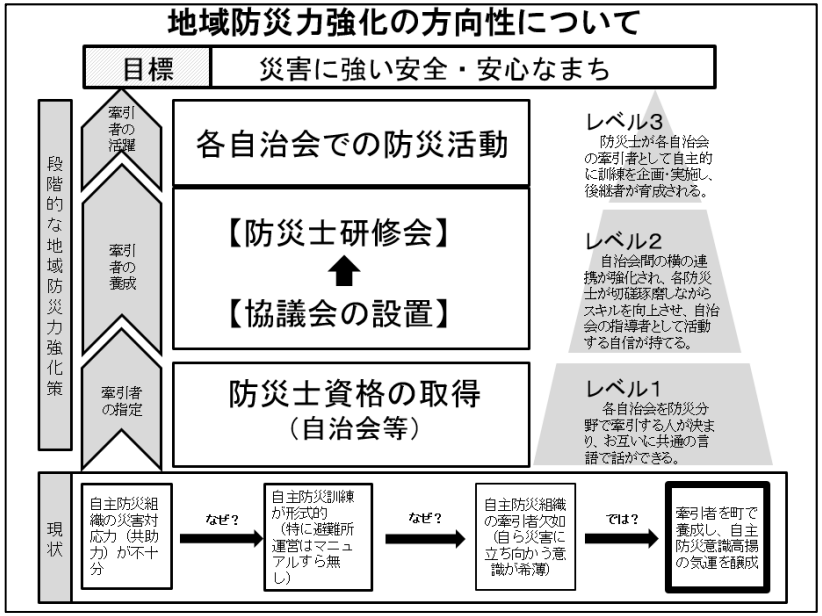
〇火山性群発地震の発生（平成13年には、4,000回以上）
〇小規模の水蒸気噴火により、一部地域を封鎖、観光･住民生活に影響（平成27年）

■課題
- 災害により孤立した地域へ続く道路をいかに早く開通させ、効率よく救出、あるいは補給するか
- 少子高齢化、人口減少が顕著であり、「助ける人」と「助けられる人」のバランスが崩れている
- 外国人観光客が多く訪れる地域であり、外国人観光客の安全を確保する必要がある

■道の駅が果たした役割等
- 道の駅は、噴火による被災を受けづらい場所に位置していることから、応援部隊の活動拠点、情報発信拠点に適している

■災害に備えた活動
- 情報、救助、復旧に関して、各事業者等と協定を締結
- 防災士資格の取得を町がバックアップ
- 外国人観光客に対応するため、看板やパンフレットに記号やピクトグラムを使用

■民間事業者に期待する事項
- 孤立した被災者のために、宿泊施設を被災者に開放
- 防災士の資格取得、活動協力
- 災害時に有効なアプリや機器の開発
- 語学を活かしたボランティア活動



災害時に支援可能な事業者による実践事例報告（民間事業者）

〇民間事業者の資源やノウハウを活用
〇平時にはビジネスとして成り立ち、利益を生み出す
〇災害時には防災機能を発揮

■山崎製パン株式会社：山崎製パン(株)の取り組み紹介
- 災害時・震災時の災害支援、商品供給（食品製造メーカーとしての社会的責任）
- 長期保存羊羹、クッキーの製造（賞味期限5年）
- 地元素材、地域の特産品を使ったオリジナル商品の導入

■岩田食品株式会社：「道の駅」を核としたローリングストックのご提案
- 日頃食べている食品が、災害時にも食べられることが理想
- ロングライフ食品（20品目程度）を道の駅7駅に供給
- 地域の郷土食＋ロングライフ食⇒レストランメニュー、お弁当として道の駅で販売

■東京海上日動リスクコンサルティング株式会社：道の駅に期待される災害対応・BCPについて
- 「初動対応計画」があって初めて、「事業継続計画（BCP）」が成り立つ
- 行政、自治体、ボランティア等と連携したハブとなる「道の駅」ができれば、機能としては十分ではないか
- 道の駅事業者向けに様々なソリューションを展開

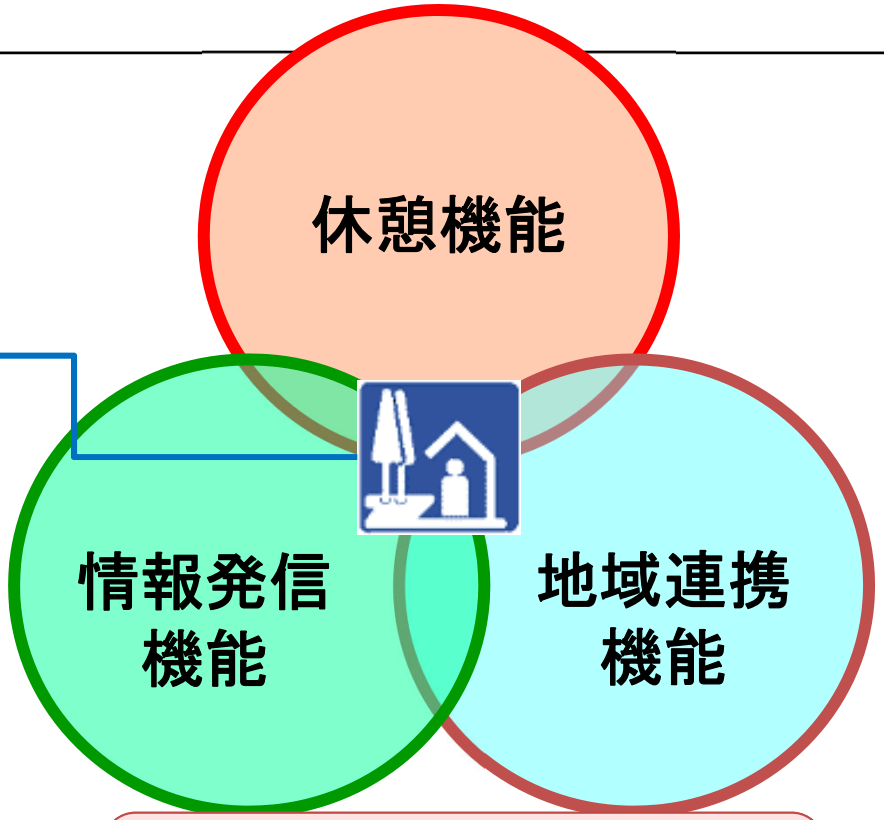
■株式会社フェザンレーブ：“災害の新常識”から考案した防災用品
- どんなケースにも通用する“完全な防災”はない
- 災害は時間と場所を選ばないの⇒防災用ポーチ【常時携行パックⅡ】を販売
- 在宅避難時の断水に対する備え⇒２人家族が一週間凌げる【災害イツモ断水時ボックス】を開発、販売

民間活力による道の駅災害時支援強化にかかる提言

道の駅における災害時支援に関する研究会では、
『「道の駅」が防災拠点としての機能をよりよく発揮できるよう、「産・学・官」が連携し、民間企業の資源やノウハウを活用していくことが重要であること』をここに提言する。

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともにつくる
個性豊かな
にぎわいの場



民間の資源やノウハウの活用
（平常時から）

→

災害時は
防災機能を発現